高田松原津波復興祈念公園

見どころMAP

本紙は9月10日あるこうえんイベントに参加された方々の意見も取り入れて作成しました。ご協力ありがとうございました。

色分け内容
- 自然・生物
- 歴史・遺構
- 景色・風景
- 復興・防災
- 食・楽しみ

気仙中学校周辺

①「希望のかけ橋」とベルトコンベアの基礎

写真提供：陸前高田市

震災で壊滅的な被害を受けた陸前高田市では、高さ10m以上に及ぶ市街地の嵩上げ盛土が行われました。その際に土砂を運搬した巨大ベルトコンベアとつり橋「希望のかけ橋」の基礎部分が公園内に残されています。

②旧国道45号

旧気仙中学校の西側横に残る旧国道45号。周りが12m以上嵩上げされましたが、ここだけ元の地盤の高さで残りました。知る人ぞ知る震災遺構です。かつては、気仙沼方面から来て、ここを右折し、釜石・大船渡方面に行けました。

③気仙中学校

震災時、先生と生徒全員が、奇跡的に安全に避難できた「奇跡の中学校」。震災後は、高田一中に統合され閉校となりましたが、かつて気仙町の人口が多かった頃は、町民運動会等でも賑わっていました。

奇跡の一本松周辺

④気仙川水門

気仙川水門は、数十年から百数十年に一度程度発生する津波を想定して、堤防高を標高12.5mとしています。長さは211mあり、気象庁が発表する津波注意報・警報等を全国瞬時警報システム（Jアラート）で受信すると、自動的に水門が閉鎖される仕組みになっています。

⑤ユースホステル周辺の海浜植物

2010年まで宿泊施設として使われていた建物が津波の威力をまざまざと伝えています。奇跡の一本松が残ったのは、この建物の後ろに立っていたからという説もあります。初夏にはハマエンドウやハマヒルガオなどの海浜植物の群落が見られます。

⑥奇跡の一本松

約7万本あったと言われる震災前の高田松原の中で一本だけ生き残り、復興の象徴として有名になりました。震災翌年には残念ながら枯死が確認されましたが、世界中から支援を得てモニュメントとして復活しました。幹はもとの一本松のものが活かされています。

⑦一本松の背後の橋（しおさい橋）

写真提供：渡辺雅史氏

奇跡の一本松のたもとに架かる「しおさい橋」は、津波の勢いに耐え抜き、震災前も今も橋として役割を担い続けている貴重な存在です。震災前のこの写真は、緑豊かな松原と、松原の中でもひときわ大きな奇跡の一本松の様子がよくわかります。

⑧高田松原の根株

奇跡の一本松の近くの水面に、かつての高田松原にあったマツの根株がたくさん見られます。津波によって地上付近で幹が引きちぎられ、根元周辺は地震によって地盤沈下、さらには津波でそれが掘り起こされ、このような状態になりました。

伝承館/道の駅/国営追悼・祈念施設周辺

⑨今泉の沖の田と冬鳥

津波復興祈念公園の北側に広がる水田（沖の田）は、高田松原の松に守られて江戸時代から耕され続けてきました。今では越冬する冬鳥たちの格好の餌場となっており、多い日には200羽以上の白鳥が飛来します。

⑩道の駅高田松原

震災遺構ともなっているタピック45（旧道の駅）に代わって、2019年9月に オープンしたのが新しい「道の駅高田松原」です。自転車ガイドツアーや、防災を学ぶ散策ツアーなど、広く観光の窓口となっています。

⑪電気自動車「モビタ」

市内中心部を時速20km未満で巡行するスローモビリティです。土日・祝日は、道の駅高田松原、カモシー、ウタミオーガニックランド、アパッセたかた、陸前高田駅などをぐるっと一周してくれます。運転手さんとお話できるのも魅力です。

⑫東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）

東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、震災を乗り越えて進む姿を、国内外からいただいている支援への感謝とともに発信することをミッションとしています。様々な映像や展示から、津波の脅威や、その時の人々の行動、震災後のあゆみなどを学ぶことができます。

⑬DNAマツとヒカミサンベニヤマボウシ

3本のマツは、震災前の高田松原に生育していたマツの子孫で、2019年9月の一部開園式典で記念植樹されたものです。また、奥の建物に沿って植えられたヒカミサンベニヤマボウシは、陸前高田が原産とされ、6月頃に美しい花を咲かせます。

ヒカミサンベニヤマボウシの花

⑭タピック45とその周辺

震災前は、道の駅「高田松原」タピック45として賑わいを見せていた建物です。正面には到達した波の高さを示す線が示されており、すさまじい高さであったことがわかります。海側は階段になっていて、震災時その階段をあがって助かった人もいました。

※写真提供：渡辺雅史氏

震災前のタピック45

震災前の物産館

シンボルロード周辺

⑮避難トンネル

いざというときに、タピック45の周辺から高台に向けて、国道45号を渡らずに避難できるようにと作られたものです。天気が良い日には、トンネルの先の未来に向かって、素敵な写真をとることができます。

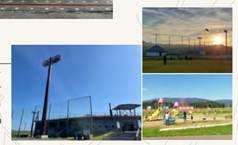
⑯ハナミズキの道

高台市街地に向かう川原川沿いのシンボルロードの両側には、ハナミズキが植樹してあります。このハナミズキが津波からの避難路をわかりやすく示すことで、『より高い所へより早く駆け上がれ！』という東日本大震災の教訓を、絵本「ハナミズキのみち」と共に未来へと伝承しています。

⑰震災前のJR大船渡線の踏切跡

震災前に気仙沼と大船渡をつないでいたJR大船渡線の砂畑踏切の跡が公園内に残されています。かつて毎年8月7日の「うごく七夕」の日には、この踏切を超えて、海の近くの道の駅タピック45に向けて七夕の山車が引かれていきました。

⑱高田松原運動公園



高田松原運動公園には、野球場やサッカー場などがあります。球場の近くには芝生の生えた大きな多目的広場やこども広場があって、付近ではイベントが開催されることもあります。空はひろく、散歩やスポーツをするのに最高に気持ちのよい場所です。

古川沼周辺

⑲タピック裏の映え＆休憩すぽっと

震災遺構であるタピック45（旧道の駅高田松原）の南側に、古川沼と奥の箱根山がいい感じに撮れる場所があります。また、古川沼に続く階段もあり、ベンチが少ない公園内で休憩できる場所としても貴重です。

⑳震災直後の古川沼

古川沼は広田湾が砂州で海と隔てられてできた潟湖（せきこ）です。東日本大震災津波によって砂州の多くが流失し、一時的に海に戻りました。現在では写真中央の残った砂州の付近に防潮堤が再建され、再び沼に戻りました。

㉑古川沼の階段（白鳥が見える）

陸前高田には、夏鳥のシラサギ、留鳥であるカルガモ等に加え、白鳥、マガモ、オナガガモ、ヲドリガモ、キンクロハジロ、オオバン等が越冬のために飛来します。岩手県沿岸では一番の越冬地です。多い日には200羽以上の白鳥が目撃されます。古川沼と気仙川の嶋部（しまっぺ）が主なねぐらで、祈念公園付近の水田、空き地、気仙川の河川敷などを餌場としています。

㉒野草群

左は「ノラニンジン」、右は「キクイモ」で、名前は全然可愛くありません。いずれも外来種で、震災後にあちこちから土が運び込まれて根付いたものなのでしょう。これもまた一つの復興遺構かもしれません。

㉓旧最上堂橋

最上堂橋の下流の水面に頭をのぞかせるコンクリートの遺物は、震災後の架け替えで撤去された旧最上堂橋の一部です。震災前の高田松原公園・海水浴場に向かう入口とも言える場所で、付近には旅館などもあり、昔は大変賑わっていたといいます。

㉔さざなみキラキラ

復興祈念公園の東半分は、施設なども少なく、まだ木も小さくて、いわゆる「映え」る場所が少なめな印象ですが、キラキラ光る古川沼には、誰でもテンションが上がるはずです。

㉕古川沼を望む

公園内ではいろいろな場所から古川沼が望めますが、この辺りからの眺めもお薦めです。夕焼けの時間帯には、それはそれは美しい写真が撮れます。現在の最上堂橋を渡ったところにある駐車場のすぐ近くです。

高田松原・防潮堤周辺

㉖海を望む場

津波伝承館と道の駅の間を抜けて「祈りの軸」に沿ってまっすぐに進んでいくと、防潮堤の上につくられた「海を望む場」にたどり着きます。眼下には、雄大な広田湾。その手前には再生されつつある高田松原や海水浴場の砂浜も望めるようになりました。

㉗松原大橋からの古川沼

写真提供：渡辺雅史氏

松原大橋は、震災前に架かっていた橋がそのまま使われており、震災遺構のひとつと言えます。古川沼の出口に架かるこの橋からは、市のシンボルである氷上山をバックに、県内最大の天然潟湖である古川沼を眺めることができます。

㉘啄木の歌碑

石川啄木は旧制中学時代に陸前高田を修学旅行で訪問したそうです。「頬につたふ なみだのごはず 一握の砂を示しし人を忘れず」。この碑の向こうには遺構であるタピック45（旧道の駅高田松原）、右奥かなたに氷上山を望むことができます。

㉙高田松原と広田湾

啄木の歌碑の近くにある階段から防潮堤の上にあがれば、津波を乗り越えて育てられている高田松原の松、そしてはるかに広田湾が広がっています。天気の良い日には広々としてとても気持ちの良い風景を眺められるので、是非お立ち寄りを。

㉚高田松原の再生活動

「高田松原を守る会」では、東日本大震災の大津波で壊滅した名勝高田松原の再生を目指し、多くの支援者のご協力を得て、2017年から2021年にかけて1万本の松苗の植樹を行いました。岩手県が植樹した3万本を合わせて、現在4万本のマツが育っています。

㉛海水浴場西側の海浜植物

津波でなくなってしまった砂浜ですが、養浜によって再生されました。できたばかりの頃には何も生えていませんでしたが、いまではハマエンドウなどの海浜植物が多く見られようになっています。砂浜は生き物たちを守るための場でもあるのです。

㉜防潮堤のり面のハマエンドウ

コンクリートでできた防潮堤を公園の風景となじませるために、防潮堤の斜面を土で覆っています。初夏の頃、ハマナデシコ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、コウボウシバ等の海浜植物の美しい花畑になります。

公園管理事務所周辺

㉝古川沼のシラサギ

近くの田んぼでは、普段1～2羽ぐらいしか見られないシラサギ。ここ古川沼では、春から秋にかけてたくさんのシラサギが羽を休めています。時には一斉に飛び立ったり、見ていて飽きません。

㉞古川沼の東端部

古川沼でも、祈念公園の管理棟がある東端部は、市街地を通らない小泉川のきれいな水が流入し、またヨシ原が茂って目隠しともなっているため、野鳥等の生き物にとって快適な場所となっています。夏には、古川沼だけで100羽を超えるシラサギがたむろしています。

㉟公園管理事務所周辺プランターの花飾り

公園管理事務所周辺のプランターに、地域の皆さんと一緒に花を植える活動を続けています。2022年11月には、タピック前の緑地にスイセンの球根を植えました。春を楽しみにしていてください。

㊱浜田川河口の小さな自然再生

浜田川の河口の水門付近には、まるでプライベートビーチのような可愛らしい砂溜まりや、ミニチュアの「ひょうたん島」、そしてもみの木の形をした「盆栽松」など、小さな自然が着々と復活している様子が見られます。

下宿定住促進住宅周辺

㊲下宿（しもじゅく）定住促進住宅

5階建ての建物の4階まで、津波が窓を突き破りました。津波の高さと威力を物語る遺構です。この建物を含め、高田松原津波復興祈念公園内の震災遺構は、被害者が出ていないことを一つの基準として残されました。

㊳津波を乗り越えた桜（ソメイヨシノ）

この桜は、震災前の川原川沿い（現在の国営追悼・祈念施設）にあり、津波で倒されたその根株から芽吹いたものです。市民からの要望で工事による伐採を免れ、ここに移植されました。この桜の仲間はタピック45、気仙中学校付近にも植えられています。

㊴ミズアオイ

震災遺構の下宿定住促進住宅の近くに、計画的に再生されたもので、鮮やかな紫が印象的です。昔は水田や沼地、池、河川の下流域などに広く生育していましたが、現在は除草剤や農地整備、河川改修などによって激減し、環境省RDBでは準絶滅危惧に指定されています。